

第1回懇談会で出た意見の概要

懇談会の役割

- 環境リスクに関する正確な情報の発信とあるが、この懇談会でそういった発信がうまくできるのか心配である。
- 正確なリスクはなかなか評価されていないのが現状なので、正確なというのは括弧つきくらいにして、その辺を理解したうえで議論すればよい。

懇談会で取り上げる内容について

- 事業所の活動を発表する回では、あくまで一つのケースとしてご紹介したい。
- 市民、事業者、行政の取り組みを議論するよりは、それぞれの役割について議論したほうが、提言になるのではないかな。
- 化学物質による影響をよく知らない人たちにも関心を持っていただけるような身近なテーマも取り上げて欲しい。

進め方の順序

- 事業所を出発点にするとその地域に限定されてしまいその地域以外の人とはとらえにくいので、私たちの生活を出発点にして、じゃあそれを作っている事業者はどうだろうという順がよい。
- 市民に近い問題からP R T Rまで引っ張っていくのはなかなか遠い。比較的情報が揃っているP R T Rの情報を活用して、リスクはどういうものかといった勉強から始めて、やがて市民生活のリスクは何かというところに話がいかばいい。
- 理解をしあうためには情報なしでは難しいので、どこかの機会で事業者の方にプレゼンテーションしていただき、意見交換をしてお互いの立場を理解した上で、次のステップに進めばよい。
- まずは市民の側から非常に初歩的な勉強会から始めていくといろんな目で公害を見ることが出来るのではないかな。

市全体の化学物質対策について

- 工場周辺におけるリスクコミュニケーションのモデルを確立するだけでなく、市全体において市民、事業者、行政がどういう役割を担うべきかをメッセージとして出していくべきである。
- 市全体のリスクは議論がしにくいので、情報が揃っている事業所から始め、やがては全体が見えるようになるとよろしいのではないかな。